

実際の生活や狭い場所でのサバイバル・スキル

BAT 環境や実際の生活において、必要不可欠なのは、そのときの状況やストレスレベルに合わせることにあります。そのための最良の方法は、正規の BAT ができる適切な距離で、ただ犬の後ろについて行くことです。しかし、それができない場合があります。例えば、トレーニングを実施する場所が狭過ぎる場合、挨拶しなければいけないかもしれない（反応を引き起こす刺激（もの）がすぐ近くまで来てしまう）場合や、犬がすでに不安になっていて、自分がしていることで精一杯な状態の場合などです。そうした状況では、マーク&ムーブを使いましょう。



マーク&ムーブ：マーカは、その行動によって強化子（報酬）が獲得できたことを伝えます。次のリストの左の列の中のいずれかの行動を、中央の列の中のいずれかのマーカを使ってマークしてから、（反応を引き起こす刺激から）離れて、右の列の中のいずれかを結果事象（行動の結果）として提供します。行動やマーカは、他にもあります。クリエイティブになりましょう。すでに食べ物やおもちゃと関連付けられているマーカを使う場合は、（反応を引き起こす刺激から）離れた後で、それらを提供します。

行動	マーカ	（刺激から）離れた後、提供するもの（結果事象）
<ul style="list-style-type: none"> （反応を引き起こす刺激から）離れる あなた（飼い主）を見る 反応を起こす刺激から視線を外す（それを見た後で） 筋肉の弛緩（耳、しっぽ、口…） 反応を引き起こす刺激を見る 	<ul style="list-style-type: none"> 質問型マーカ：「終わった？」と言いながら、体の重心を後ろに移動させる バーバル（口頭の）マーカ「Yes!」 ハンドフラッシュ（拳を握り、それをすばやくパツパツと開く）（耳の聞こえない犬の場合） クリッカー キュー：「見つけて」「タッチ」「オイデ」など 	<ul style="list-style-type: none"> やさしく褒める 食べ物（トリーツ）を地面に落とす 食べ物（トリーツ）を犬の口に届ける おもちゃを見つけさせるか、おもちゃで遊ぶ ノーズゲーム（ノーズワーク。鼻を使って食べ物などを探させる）、アジリティなど マーカと強化子を獲得できる行動のキューを出す

例：反応を引き起こす刺激を「見た」ことを、クリッカーでマークして、その刺激から離れる。その後、トリーツを地面に放り、探させる。

（リストでは）人がもっとも犬の選択に立ち入らないものから、もっとも立ち入ることになるものまで、別の言い方をすると、もっとも犬自身の努力と選択を必要とする行動から、もっとも少ない努力で実行可能な行動までを、順番に挙げています。（反応を引き起こす刺激から）離れるという行動をマークできるとすれば、刺激を見たらすぐにマークしなければいけない場合よりも、より簡単にその刺激から注意をそらすことができているということです。犬がリラックスしているのであれば、リストの上の方の行動をマークしましょう。狭い場所にいる場合は、リストの一番下の行動からマークしていきましょう。マーカは、もっとも強要度が低いと考えられるものから順に、上から並べてあります。例えば、質問型マーカでは、離れるか離れないかの判断を犬に委ねますが、クリッカーやキューを使えば、たいていの場合、犬はあなたの方に振り向きま。離れた後に提供するもの（結果事象）は、犬の注意を（反応を引き起こす刺激から）そらす効果の低いものから高いものまでを順番にリス

トアップしています。

(あなたに) 気を取られればとられるほど、あなたの犬は反応を引き起こす刺激を知ること
に注意を向けられなくなります。ですから、(リストの中の上位の) もっとも人が犬の選択
に立ち入らない(犬に選択を委ねる) バージョンのマーク&ムーブを使いましょう。BAT が
もっとも早く進むのは、犬がリラックスしていて、あなたの介在を必要とせず、その場所を
探索して、自分の力で反応を引き起こす刺激を学ぶときです。

実際の生活：実際の生活の中では、BAT の台本通りに動いてくれる練習相手(他の犬や動
物、人やものなど、私たちが「トリガー」と呼ぶ、その犬の反応を引き起こす刺激)は、存
在しません。しかし、**BAT 環境で成功を重ねれば、あなたの犬は、そうした新たな状
況でもリラックスしていただける可能性が高くなります。**練習あるのみです。BAT 環境で
成功できるようになるまで、あなたの犬が成功できる環境を用意することが重要です。あな
たの犬が対処できる状況で、反応を引き起こす刺激の周辺に居させるだけです。

散歩中、あなたは反応を引き起こす刺激をコントロールすることはできません。しかし、自
分が行く場所も、あなたの犬が「砂浜」に居続けられるようにするために自分がすることも、
コントロールできます。あなたが、あなたの犬よりも先に、反応を引き起こす刺激に気付い
たら、**あなたの犬がそれを見てもリラックスしていただけるように、反応を引き起こす
刺激との距離を前もって十分に取っておきましょう。**あなたの犬がその刺激に気付いた
ときに、それ以上の手伝いを必要とせずに、自分自身で(どうするかを)決められるよう
にするために。道の反対側に渡ったり、反応を引き起こす刺激が通り過ぎるまで、駐車してあ
る車の背後に行ったりできるでしょう。オフリードになっている犬がいない場所に散歩に行
く、散歩の時間帯を変えるということも選択できます。あなたの犬が限界を越え、「どうし
たらいいかわからない」状態になってしまった(あるいは、そうなりそうな)場合には、呼
び戻すか、マーク&ムーブをしましょう。大きな声を出したり、リードを強く引いたりせず
に。

反応を引き起こす刺激から、十分に離れることができない場合もあります。そんなときは、
サバイバル・モードに切替えて、あなたの犬の注意をその刺激からそらす必要があります。
都会でのトレーニングでは、頻繁に起きるでしょう¹。浜辺の比喻で言えば、すぐに海岸か
らあなたの犬を連れ戻せない場合には、浮き輪を投げる必要があるということです。トレー
ナーたちは、そうした状況をうまく切り抜けるための方法をいくつも知っています。

¹ 都会に留まりたいということは、サバイバル・モードの状態が続くということ。自分の犬のためのマイクロ・
マネージメント(細かな管理)をやめたいと思うならば、あなたの犬がリラックスできる場所で、BAT を台本通
りに実施しましょう。それは、そうした場所まで車で行く、そうした場所をクリエイティブに考える、(衝立や
そこにある物などを利用した)ビジュアル・バリアを使う、薬やリラックスさせるためのテクニックを試してみ
るといったことになるかもしれません。

移動できる場所がある	逃げ場なし！
<ul style="list-style-type: none"> • マーク&ムーブ • 遠ざかるときに、「タッチ」（鼻タッチ/ハンドターゲット）をさせる • 離れるときに、「見つけて」をさせる（トリーツを地面に放り、探させる） • ノーリードの犬に向かって、トリーツを投げ、離れる。（これをやるときは、その間、自分の犬の集中を取り続ける必要がある） 	<ul style="list-style-type: none"> • 反応を引き起こす刺激を見たら、クリックしてトリーツを食べさせる • 反応を引き起こす刺激から視線を外したら、クリックしてトリーツを食べさせる • 「タッチ」（鼻タッチ/ハンドターゲット）やチンターゲット（チンレスト。手のひらにあごを乗せる）などのトリックをさせる • その場所で「見つけて」をやる（トリーツを地面に放り、それを探させる）（ノーリードの犬がいる場合はやらない） • 反応を引き起こす刺激と、自分の犬との間に立ち、「こっち見て」（アイコンタクト）のキューを出す • 反応を引き起こす刺激が通り過ぎるまで、自分の犬にトリーツを絶え間なく食べさせ続ける

ディストラクション（犬が気を取られる刺激）を、こうした状況を切り抜けるために使う場合、ストレスは増大したままになる可能性があります。ディストラクションは、あなたの犬に自ら対処するスキルを身につけさせたり、その状況が安全であることを教えたりできるわけではありません。しかし、**犬をパニック状態にしてしまうほど悪いことではありません。**ディストラクションが機能しなかった場合は、その場を乗り切り、かつ、その場所にいるすべての人・動物の安全を確保するために、できることはすべてやります。**犬を罰しようとすることで、状況を悪化させてはいけません。**あなたの犬のストレスレベルを理解しましょう。あなたの犬がリラックスするのを助けるために、「見つけて」をさせる（トリーツを地面に放り、探させる）、もしくは、すぐに家に帰る必要があるかもしれません。

家に帰ったら、今後再び同じ状況に陥ることがないようにするために、考えてみましょう。例えば、そのルートで散歩にいかねばいけないのか？散歩のために、どこか違う場所まで車で行くことはではないか？といったことを。

BAT 環境でのトレーニングに効力を持たせるために、あなたの犬が落ち着いて散歩ができるよる環境を用意し続けましょう。あなたの犬がストレスを感じることなく、反応を引き起こす刺激を認識できる環境（状況）で BAT を実施することができれば、目覚ましい向上を目の当たりにすることができるでしょう。頑張りましょう！